

2009 マリンバイオ同好会 夏休みの活動

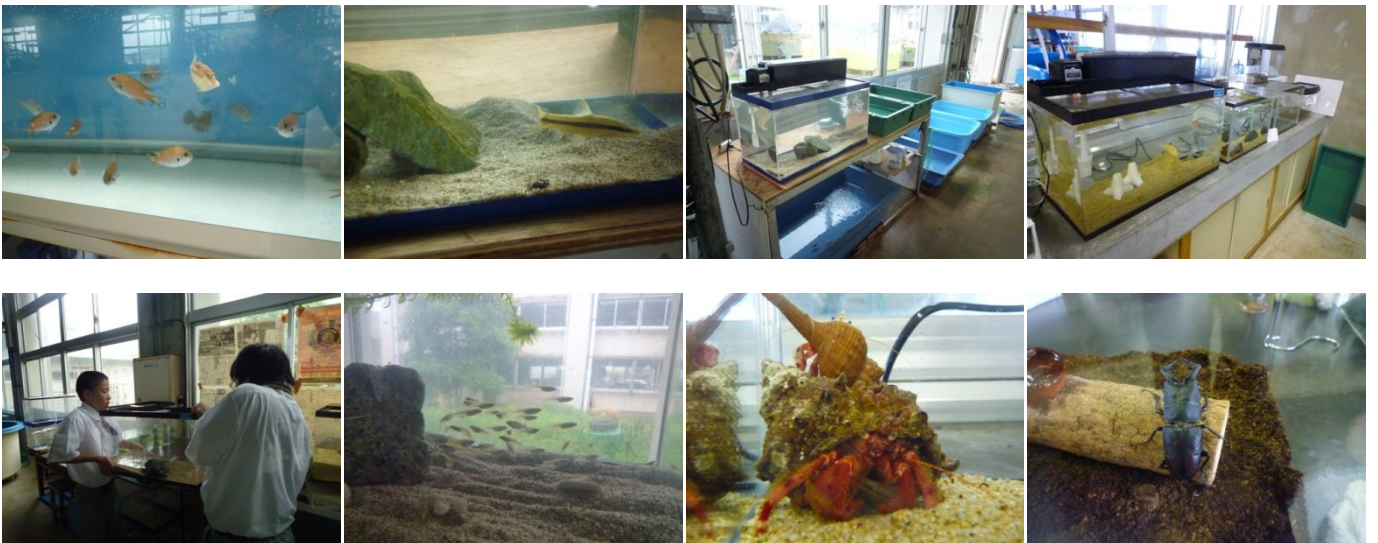
○ 徹底管理

マリンバイオ同好会では夏休みに入ったところで、各施設・飼育管理水槽の掃除、データ整理などを徹底的に行いました。

生物の飼育には環境整備は絶対不可欠です。自分たちが管理している種類以外のものも積極的に扱っていき、幅広く生物飼育の技術を身に付けたいと思います。



飼育管理している水槽を洗い、整然と並べて飼育や観察がしやすいようにしました。



右下の写真はノギリクワガタの「ライデン」です。海洋栈橋魚類相調査中、海に漂うクワガタを発見、採取してみました。彼は足を折りたたみ、ピクリともしなかったため死亡していると断定。後で標本にするべく、とりあえずロッカーに放り込んでおきました。そして数時間後、ロッカーを開けるとなんと復活！！海で採取されたのでとりあえず飼育しています。

○ 小中高連携事業

7月22日、京丹後市立久美浜小学校5年生26名が、学校見学と海の生物についての勉強をするため来校しました。小学生は栽培漁業実習棟において、1Fで飼育管理施設の見学、2Fではプランクトン、ヒラメ稚魚の観察を行いました。

マリンバイオ同好会はこれらの準備から後片付けまでのサポートをすることになりました。夏休みなどの長期休業時にはよく小・中学校の訪問があり、栽培漁業実習棟関連の際には必ず参加、協力しています。



△1Fでは飼育管理している魚たちの説明、2Fでは顕微鏡観察の手伝いをしています。

○ 波打ち際生物採集

1年生2人が「投網」を打てるように練習し、砂浜での生物採集を行いました。昨年、この季節に投網で採集された主な生物はネズミゴチ、キンセンガニが主でしたが、今年はマダイ、マガレイ、メジナ、クサフグなどが採集されました。いずれも稚魚です。昨年に比べ採集される魚種、数が多いように思います。



○ マリンバイオ同好会顧問の想い

目視観察とカゴ採集だけでなく、投網により採集された生物も記録し、経年比較ができるようにしています。昨年は台風が来なかったため、海水温が異常に高く、今年は梅雨入りが遅かったものの長梅雨となり、水温が低い状態です。そのため、採集される生物に若干の違いがあるように思われます。しかし、これらは記憶としての違いがあるのであって、記録としての違いがあるわけではありません。そこが日頃から活動を頑張っているだけに残念に思っているところです。昨年のデータがあれば面白い結果が得られるだろうと思われすし、実際そうだったと思います。そこで今年から魚類相調査を始めるようにしました。これには目視観察、カゴ採集の他、投網や、釣りによる生物採集のデータも記録するようにしています。これにより、その年に採集される生物や水温などの環境変化から、その年による季節変化や環境の違いを自分たちで行った調査記録から感じ取り、分析できるようになるのではないかと思いますし、そうあってほしいと願っています。

現在のところ、昨年よく見られたアイゴを見ることができません。また、ツメタガイの卵を砂地の浅瀬で良く見かけました。ヒトデ類も多いようです。この夏、長雨が続き、昨年とは自然環境が違うことばかりです。

これらの自然事象が魚類相にどう影響し、マリンバイオ同好会で行う調査記録から、どのような結果が導き出されるのか楽しみにしています。調査を通じ、生物・環境に関心を持ち、自分たちが行っていることが、どれだけ素晴らしいことなのかを感じてほしいと思います。そして一人一人が生物飼育者・調査研究者であることに自信と誇りを持てるようになってほしいと思っています。ここでの活動が、何かしらのかたちで将来に役立つことを願っています。

○ H.21 ヒラメ出荷

8月11日 福井県立小浜水産高等学校に今年生まれのヒラメの稚魚を5~6cmのもの、400尾を出荷しました。

出荷もですが、マリンバイオ同好会はプランクトンの培養から水槽掃除、分養、大小選別など、ヒラメ生産に関わる作業を行ってきました。魚類相調査や採集魚種の飼育以外に、栽培漁業実習棟において種苗生産の根幹となる作業から育成までを普段から行っています。



△ホンモロコの親魚を40尾いただきました



△H.21 ヒラメ 出荷の様子

稚魚の出荷や放流は、種苗生産において一番うれしい瞬間です。良い経験になったのではないかと思います。昨年も小浜水産高校へ出荷したのですが、この時もマリンバイオ同好会が活躍しました。

○水潮

7月31日から続く大雨により由良川が増水、この水が栗田湾内に広がり、魚類相調査に影響がありました。表層はほぼ淡水となり、目視観察できる魚種が極端に減少しました。また、泥水が大量に流入したため、泥が海底に堆積し、カゴ採集や、砂浜での投網採集にも影響が出ました。



湾内は泥で濁り、栈橋には芥が漂着しました。このため、魚類を確認できない日もありました。そこで、実際表層水はどの位の塩分濃度なのかを知るために、水潮を確認できた約1週間の比重測定を行いました。一番低い時で比重 1.0095 という測定結果で、ほぼ淡水でした。(比重が低すぎて比重換算表からの塩分濃度割り出しは不可能でした。この日は栽培漁業実習棟飼育水槽の比重も下がっていました。)

現在(8/24 夏休み最終日)、目視観察については魚類数が増加しましたが、海底に堆積した泥の影響は続いており、カゴ採集の採捕数、種類は減少したままです。波打ち際には泥もなくなり、投網採集できる生物数、種類も回復してきました。

○夏休み総評

夏休み後半には中学生の体験学習、障害者海釣り大会など、最後までイベントに参加し、盛りだくさんの充実した夏休みをマリンバイオ同好会は過ごせたと思います。しっかり活動した者にとっては短い夏休みだったと思います。家でただただするよりも充実した日々ではなかったでしょうか。この夏の活動でパワーアップしていることと思います。今後の活動に期待です。



△活動あれこれ